



尚書會之書寫





尚書會之書寫



尚齒會詩序

白居易

會昌五年三月二十四日胡吉劉鄭盧張
等六賢皆多年壽帑亦次正與於東都
敞履道坊合尚齒之會七老相顧既醉且
靜而思之此會希有因各賦七言韻詩
一章以記之或傳諸好事者

前懷別司馬安定胡果

年八十九

閑居同會在三春大抵愚年最出群霜鬢
不嫌盃酒興白頭仍愛玉爐薰徘徊玩柅心
尤健若大看花意却勤墜落滿斟糠酪酥香
裏高掛任氤氳搜神得句題紅紙望景長吟
日雲今日吏情何不替齊年同事聖明君

衛尉卿致仕馮翊言收

年八十八

休官罷任已閑居林苑園亭興有餘對酒最
宜花溼發邀歡不厭柅條初抵腰醉舞並非
袖繫筋謳歌任褐裙寧用管絃未合離自親松
竹且清虛飛觥酒到須先酌賦韻詩成不依書
借得高山賢四皓不和此後更何如

前礪州刺史廣平劉真

年八十七

吾緣今日幸同筵朱紫居身是大年賞意當
知心朱退吟詩猶覺刀完全兩庭飲酒當三月
在席權豪象七賢山茗煮持秋霧碧玉盃斟
處秋霞舞臨塔花笑如歌故傍竹松聲當管絃
雖未學窮生死訣人間豈不是神仙

前龍武軍長史榮陽鄭據

年八十五

在席權豪象七賢山茗煮持秋霧碧玉盃斟
處秋霞舞鶴塔花笑如歌坡傍竹松聲當管法
雖未學窮生死訣人間豈不是神仙

前龍武軍長史榮陽鄭據 年八十五

東引幽間日暮春邀歡皆是白頭賓官陞朱
紫夕相似年紀高低次第句聯句每言松竹
意停不更多說古今人更無外事未心膈空有清
虛人鬼神醉舞兩迴迎勸酒狂歌一曲會余身
今朝何事偏情重同作明時列任臣

前侍御史內供奉官苑陽盧真 年八十二

三春已盡洛陽宦天氣初晴景象中千朵嫩桃
紅二月萬株垂柳逐和風非論宦位皆相似及至年
高已共同對酒歌聲猶覺妙玩花詩思可能窮
先時共作三朝貴今日猶逢七老翁但把綠醪
常滿酌烟霞萬里會應通

前永別刺史清河張渾 年七十七

幽亭春盡共為懽印綬居身是大宦遁跡豈勞
登遠岫岳絲何必坐溪磻詩聯六韻尤應易
三盃未覺難每况襟懷同宴會共將筆
比液瀾風吹野柳懸羅帶日照庭花落綺紈
此席不煩鋪錦帳斯筵堪作畫圖看

刑部尚書致白居易 年七十四

七人五百八十四拖紫纒朱岳白鬚囊裏無
金莫嗟歎樽中有酒且歡娛吟成六韻還狂飲
神引三盃氣尚粗鬼竅狂歌教婢拍婆娑醉
舞遣孫枝天年高邁二疎傳人數多於四
皓圖除都三山五天竺人間此會且應無

推中納言有敬出

皓圖除都三山五天竺人間此會且應無

權中納言有教出

有春白河尚齒會和歌 并序

前大長秋内給事藤原清輔 六十五

あを穂をへらば乃知れは清より一而をより後清は
氏もいふやををを女も昔に習乃妻世のくさ
おたひは月もや一はくをひをくそなんん

後をひりせうそりちうつをてみはるくさ

ふかりくくゆへにやあやちりひか

阿都くつもまふそとあを穂日きり後をたふ

とぬあまひをそ後くくそはくそをて

とほくそはくそやまきくう人をも後乃やまを

いたふ事くくろひきあぬと乃なりまをそはく

そを初め梨も如くそ柿中乃風とまを後

かりいさ屋大もくは河心と秋きつゆく小所

あやそりくくゆへにやあやちりひか

心くゆくとちひてたひく身は名をひり

くそはくそりくくゆへにやあやちりひか

きくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

くくくくくくゆへにやあやちりひか

散位藤原敦頼 八十三

くくくくくくゆへにやあやちりひか

ちるをれをばち乃とくふとと下たきも案
ふもふりまわさるりん

散位後原 敦頼 八十三

ちるをれをばち乃とくふとと下たきも案
ふもふりまわさるりん

大常 口頭 廣王 七十八

年と終くもふれききかろのり
ら思たきれ也也

前石列列 駕籠部 成仲 七十四

七十りりああろろ
何ぬいせよさまやま

李部 侍部 永範 七十一

いしりこのれをばち乃とくふとと下たきも案
ふもふりまわさるりん

予為三代之侍讀通七旬之類 齡位
昇三雨を列七隻放有以興矣

右京権大夫 源頼政 六十九

むをちあよりさぬをばち乃とくふとと下たきも案
ふもふりまわさるりん

散位大江 維光 六十三

人なむくりきちいつる
兼安二年三月十九日於白河實莊嚴院

碑

藤原 石見 成仲 宿禰

讀評 右京権大夫 頼政 胡后

暮春見尚齒會和歌

太宰 太貳 重家

若らく乃也きき人若くちむま

いしりこのれをばち乃とくふとと下たきも案
ふもふりまわさるりん

太宰大貳重家

考らく乃也一考人若うちむましく
いしとんひとけつるまゝかき

皇居官亮季經

いしきりりかあしとまを引つ控く
あはれいらくはとる不屋不

盛方

考たふ系あを清けをれし一ふとん毛
むしとんあやかふかたれしと

伊豆身源仲綱

ちる花あから乃控おとけとん徳ん
なす下も人乃くやまし徳し

行国祚宣後四位上管茂政平

世と種くまきし一とを、少し徳を
はなまひさしと友し控まふ子

教位藤原憲盛

城乃、一り系とあわいり徳屋也
そふあをれ控根りか毎り徳

教位統部元成

主後人乃をれ多しとちあをれと
治しとと我人とんぶら免

學生藤原尹範 大弼息

たひく其人のたつこわ徳とけしとん
かしられ雷りんれ控まふ人徳

僧顯昭

後まきあむしの表をたけりひ出て
考あはれいあし徳とあはぬ

講師 伊豆身源仲綱

講師 皇居官亮季經 朝臣



老矣其有孔... 亦之... 之... 之...

講師 伊豆身仲送

讀師 皇太后亮 藤原朝臣

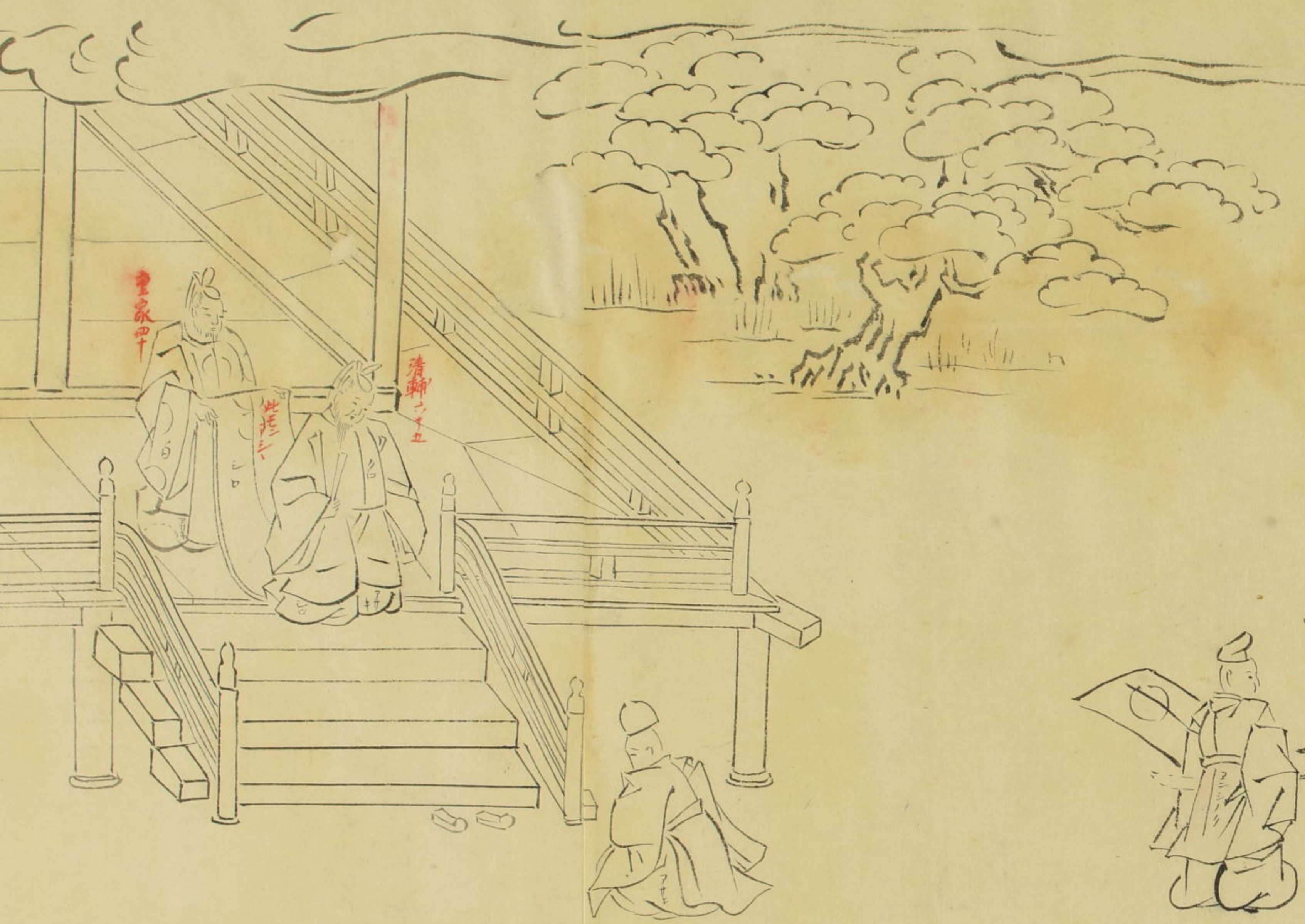


顯慶王七十八

成仲七十四

養全

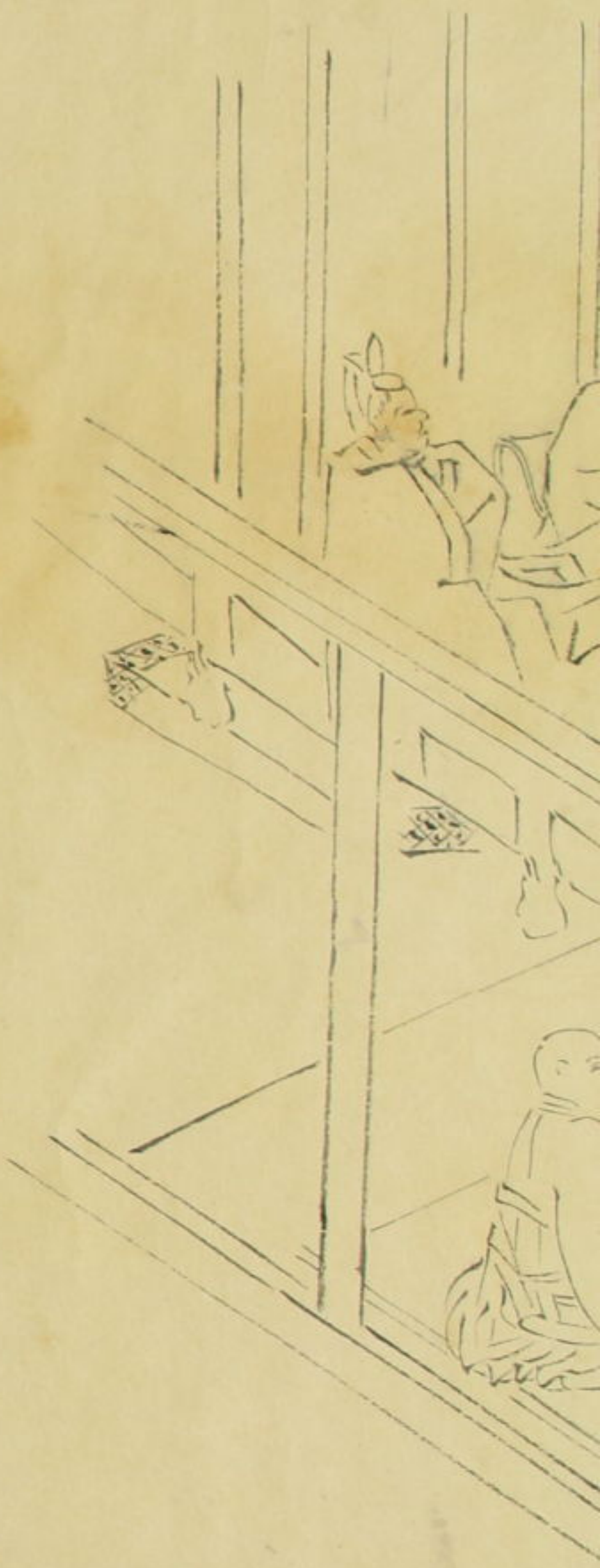
ワウト
糸又
三三











兼安二年と記乃表中のこゝぬれば日白河
の邊より中より流の心より心ひをきふ
とぬら會をこゝろふま川む下の時きこひり
かこふむうふきこりにこゝろひこ
人の座をこゝろ西を東向の南にひ流
むさこよれこよ西ひこ高藤端乃こゝろ
はねをこゝろちねおい人の座を南
よとひここゝろひきさきて高藤端の邊
一帖むこゝろ端乃こゝろ二帖をこゝろ
下の人け座を公卿まこゝろちね
高藤一帖をこゝろちね東をかたけり未
よたもこゝろ端の邊一帖をこゝろ
六位ありひり僧座をこゝろひきさ
かゝるのちね人け座をこゝろちね
かゝるのちね山のひよれこゝろの時よ
かゝるのちね山を亮座をこゝろちねのわ
ちね七段を東の座をこゝろちねひり
ちりて南のまれこゝろちねをこゝろ池乃
ほこちよひりてちねをこゝろ東を上れり
ちよ七乃れおれこゝろちねをこゝろ

ち先よち前言察の助藤系頼十三年

次は清海... 又文基 前縁祝 第蓋 ... 竹あま

高内... して夜の上... 西家

次は和分... して... 西家

哥... 次は武部... 西家

人... 次は... 西家

神... 次は... 西家

人... 次は... 西家

次は... 次は... 西家

朝長... 武部... 西家

おかく... 西家

塩の... 西家

か... 西家

つ... 西家

おのひ... 西家

文化十年六月日写 八幡源百里





尚齒會之卷

3645
400

Red square seal impression with Chinese characters.

3645
400





73
3645
400